



# 合志の旋風<sup>かぜ</sup> ～自律貢献～

令和8年2月20日（金）No 40 発行  
文責：松本 卓也

## 心震わす音色、心躍る歌 音楽の魅力を堪能しました！

16日（月）、熊本で活躍する6名の音楽家の皆様をお招きして、1・2年生を対象にスクールコンサートを本校体育館で開催しました。このコンサートは、昨年度、本校に勤務されていたK先生のご尽力で実現したもので、以下のことをねらいとしています。

熊本市立必由館高等学校に24年前に設置された「芸術コース音楽専攻」。そこで学んだ卒業生たちが、現在も熊本県内を拠点として芸術活動を行っています。今回のコンサートは、K先生を含む2期生から4期生までの声楽家3名、ピアニスト2名、フルートソリスト1名が出演し、子どもたちが授業で学んでいるクラシック作曲家の作品を中心に、様々な楽曲を演奏します。生演奏に触れ、芸術に対する興味関心を深め、生涯にわたって芸術を愛好する心を育てていくことをねらいとしています。



「荒城の月」や「赤とんぼ」、「魔王」等、馴染みのある歌からオペラ「ロメオとジュリエット」、ミュージカル「オペラ座の怪人」まで、非常にバラエティに富んだ楽曲を、ピアノやフルートの独奏、ソプラノやバリトンの独唱や三重唱で表現されました。演奏前には曲の内容や聴き所を説明してくださり、普段の授業の時よりも何倍も楽しめたと思います。軽快かつ重厚な楽器の音色、歌声に加えて衣裳や演出など、本物の芸術の魅力を五感で堪能しました…。素晴らしい時間を過ごすことができました。芸術コース音楽専攻OB・OGの6名の皆様、ありがとうございました。

追伸：前号で紹介した「科学的根拠で子育て【中室牧子著】」には、音楽や美術は非認知能力を伸ばすことも書かれています。スポーツもですが、学生時代にさまざまなことを体験させることが大事なのだと理解しました。中学校でさまざまな教科を学ぶのも納得です！

- ドイツのデータを使った研究では、高校卒業まで継続的に音楽活動をしていた生徒は、学校の成績が良いだけでなく、勤勉性が高く、外交的で、意欲的であることがわかっています
- 美術館に行って絵画を鑑賞する経験をした生徒は、他者への寛容性が高く、批判的思考力に優れていることを示したエビデンスもあります



【フルート独奏】



【三重唱】



【ソプラノ二重唱】



## 壁をこえるために私たちにできること ～人権フォーラム2026in合志市～

14日（土）、「人権フォーラム2026 in 合志市」がヴィーブル文化会館で開催されました。熊本県ハンセン病問題相談・支援センター“りんどう”副センター長の西章男氏による講話では、「差別のない社会への第一歩は、自分や他者の『痛み』に鈍感にならないこと」「壁をこえるために対話や協働が必要なこと」「小さな一歩が、ハンセン病問題を『自分ごと』として捉え、偏見や差別のない社会をつくる力になること」を学びました。合志市で暮らす一員として、ハンセン病問題の解決に向けた取組を子どもたちと共に考え、これからも実践してまいります。



※ご意見や感想をお待ちしています。「見ました」の一言でも構いません。

保護者名（ ）